

# どうなってほしい？ 上越市

平成30年度 第2号

市議会議員さくらば節子が日頃の生活の中で疑問に思ったこと、課題と感ずることを発信しています。

日本全体の人口減少の中で、私達の住む上越市をそれでも生き活きとした街として発展させ続けたい、毎日の生活の中での気づきから、私たちの暮らしを少しずつ良くしていきたいと切望しております。

そのためには皆様お一人お一人の力が必要です。これからもどうかご意見をお寄せください。

## さくらば節子市政報告

# ごあいさつ

西日本地域を襲った豪雨がまたしても大災害を起こしました。亡くなられた方々とご家族に皆様には心から哀悼の意を表します。また被災地で不安な日々を送られる皆様に一日も早い復旧支援が実施されますよう願います。幸い上越地域は今回の災害からは守られましたが、いつ何時同じような災害に見舞われるやもしれません。保倉川整備事業の進展、万一に備えた施設や学校等の日頃の点検、急な災害に備える体制の準備などやるべきことを粛々と行うように働きかけます。



## 新潟知事の就任と上越市の観光戦略等に望むこと

前知事の辞職に伴い新潟県知事選挙が急遽行われて、副知事経験者の花角英世氏が新知事に選出されました。経済産業省出身だけに**交通政策**に長け、

- 新潟港湾・新潟空港・北陸新幹線・上越新幹線がを主軸にした交通網の整備で出遅れているインバウンド（外国人訪日）の拡大に向けて努力する。
- 東京都の対局として位置する直江津港湾の開発と羽越新幹線構想の着手による、日本海基幹交通網の整備をする。

**観光・農業政策**では、

- 自然・食・伝統文化を焦点にした観光施策の充実による交流人口の拡大を図る。
- 棚田米やくだもの等、新潟県のおいしい物を確実にブランド化すると同時に、マーケットの開拓に力を入れて、売れる農業にしていく。知事自らがセールスの先頭に立つ。
- 中山間地域や離島などの実情にあった生き残れる農業を開拓する。

その他に新潟で起業する人を支援する政策等、産業活性化のための意欲的な公約になりました。そ

の実行と結果を期待したいと思います。

上越市は新潟県の第三都市として、人口減の只中にありながらも産業を育てる努力が必要です。一つでも多くの仕事を作り、若者が定着できる、移住してきやすい環境づくりが求められているのではないのでしょうか。

- 農業に関しては、平場での効率化した稲作の継続的支援と同時に、山間部での農業に欠くことができないブランド農産物・付加価値を付けた加工食品の開発と、販路の開発です。市議会では特にこうした観点から新潟県政と手を組んだ強力な農業政策の実行を提案していきたいと思えます。
- 観光では地元関係者による着地型観光組織DMOの設立と、アドバイザーを入れた新観光企画の実現が必須です。「何人が来たか、どれだけやったか」を問うのではなく、「どれくらいのお金が地域でまわったか」という実質を問う観光行政への大転換が求められます。

## さくらば節子の活動記録（平成30年4月～平成30年6月）



見附市

健康増進事業視察で市長に質問



清里区

議会報告会で答弁



会派控室

改選で会派代表に就任



牧区

地域助っ人隊で清掃奉仕

# 子どもの虐待防止に真の解決策があるか

主張します！

東京都目黒区のアパートで船戸結愛ちゃん(当時5歳)が死亡したあまりにも痛ましい事件を受けて、法の改正から警察と児童相談所(以後児相)の連携にいたるまで、各分野に置いて多くの議論がなされています。一例ですが、国民民主党の玉木共同代表が提案した対応策を見てみます。

1. 児童相談所の人的拡充と機能強化
2. 親権の制限をより容易に
3. 児童相談所と警察の全件情報共有
4. 里親や特別養子縁組の支援
5. 児童養護施設やファミリーホームなど、一時保護施設の拡充

昨年私が上越の新潟県児童相談所を訪ねて現状と課題を所長にお伺いした折に感じたのも、まさに人材不足の課題でした。児相はあまりにも多くの相談を受けているために、職員が限界に近い状況で働いているという事実があります。そして親権に関しては「できる限り親の更生を探りながら子供を保護する」原則が敷かれています。もちろんそれは間違いではありませんが、虐待が始まっている段階では子供の安全が何よりも優先されるべきでしょう。欧米並みの公的権力を強化して子供を直ちに保護し、親の更生が望めない場合には早い段階で里親・養子縁組制度の活用が求められます。

しかしさらに「これだけでは負の連鎖ともいえる虐待の歴史が終わらない」と警告する専門家がいます。ここまでの議論には虐待が始まる前の親への支援がどこにも含まれていないのです。

NPO法人「親子法改正研究会」代表理事・元衆議院議員の井戸まさえ氏は児童虐待ケースのほとんどの親たちが自分自身の親子関係に問題を持っていることが多いこと、虐待が始まる時点で多くが失職状態であり何らかの形で公的機関への支援を求めた形跡があることを指摘しています。その過程でたらいまわしや上から目線での対応を受けた上に、肝心な支援

を受けることができずに自尊心を傷つけられる場合も多いとしています。

社会の中での立ち位置がないことは人としての尊厳に関わります。そのことへのうっぷんが「抵抗できない子供への力の行使、そしてその結果として子供が自らに隷属してくることに満足を感じる」という異常な行動を生むケースがあると言うわけです。船戸雄大容疑者は住んでいた香川県の以前の職場では働きぶりが評価されていたという事です。しかし何らかの理由で失職し、公的支援の申請過程で何があったのか、児童相談所からの追及に背を向けるようになった。そして児相から逃げないようにして東京に引っ越して、新しく生活を始めたが、どこかで道を踏み外して最終的には麻薬に手を出すようになった。

井戸氏は困窮した親への支援が緊急だと以下の支援を追加することを主張します。

6. 役所の窓口の対応に対抗できる知見を持った民間団体と役所の連携
7. 子どもを持つ家庭の失業対策
8. 地方自治体の独自施策を国が妨げないこと
9. 個別ケース重視・困窮者ひとりをいかに助けるか
10. 「家族」の再生のための周辺縁者をつくる

親の失業対策も同時に行っていくために、生活困窮者自立支援事業と協働しながら、こうした家庭が危機に陥らないようなきめ細かい対応を取っていく必要があります。

それと同時にこうした若く困窮した家庭が頼りになる隣人を得るチャンスを作るような地域の居場所があったら、と願わずにはおれません。「子供食堂」の拡大版でしょうか。昔のお寺のように子供も大人も集まってきて、そこでは自分の弱さを出しても安心していられる居場所を行政と住民が協働して作っていけないでしょうか。



「上越をワクワク楽しみ隊」です。この地域にはたくさん素晴らしい観光拠点があるのに知られていません。妙高や糸魚川と力を合わせて素晴らしい上越を発信していきましょう！今は「アート着物」が旬ですみなさんも試してみませんか？



心と体の健康 ル・ポセ代表  
春日山在住 松田光代さん

上越はたくさんさんの芸術と文化が根付いている地域なのに大人も子供もそうしたものに直接触れるためには新潟市や長岡市まで行かなければならない。上越市内にこそ、しっかりとした美術館が欲しいですね。



芸術愛好家・写真家・歌手  
牧区在住 秋山さん

草刈ボランティアをやって二年目だけど、人手が足りなくて困っている地域にはこうした活動がもっと必要だね。年寄りの通院や買い物足を確保することも大切だと思うので、市にはぜひ取り組んでもらいたい。

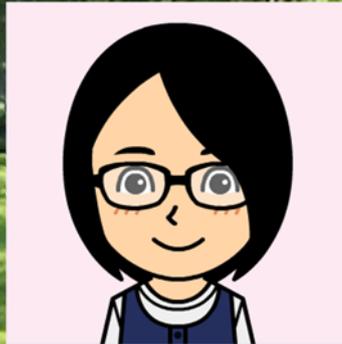


保倉区在住 小林さん

着物愛好家・着付け士  
清里区在住 長嶺寛子さん



進路が決まりません。勉強は続けたいけど、今のうちに日本の知らない地域を見てみたい。世界も見てみたい。とりあえずやりたいことをして、将来つきたい仕事が決まったら大学や専門学校くような、体験期間があったらいいのと思います。



市内高校生 Yさん

私は各地域で「浴衣の着付け教室」を開かせていただいております。みなさんの家にもタンスの中で寝ている着物はありませんか。簡単なゆかたから着付けを覚えて活用してください。日本の文化を守りましょう！ご連絡お待ちしております。

# こうなあってほしい 上越市

発行日：平成30年7月20日

発行：櫻庭節子

住所：〒943-0648

上越市牧区小川1590番地

電話・FAX：025-546-7835

電子メール：

office@sakuraba-setsuko.jp